

MMSで 堤防点検

実用化を検証

国土交通省中部地方整備局中部技術事務所は21日、2014年度から実用化の検証を開始した。MMS（モバイル・マッピング・システム）などの新探査技術による河川堤防の点検を河川管理関係者に公開した。写真。点検の効率化や高精度化が期待される一方、構造物などによって生まれる死角の解消などが課題になっている。

新たなシステムは、移動計測車両に搭載したMMSや高解像度カメラ、レーザースキャナーなどを活用して、施設の損傷や変状などを効率的に把握するもの。道路やトンネル、橋梁などの点検ではすでに実用化が進んでいる。

業務効率向上に期待

中部技術事務所

課題などを検証している。新たなシステムでは、法面の浸食や芝生のはがれ、天端の亀裂などの損傷を効率的に調べる。特に大きなメリットは、堤防全体の沈み込みなど、目視では確認しにくい変状を高精度に把握できることだ。

死角解消など課題も

一方、課題もある。擁壁や橋梁などの構造物や、フェンス、刈り残された草などによって死角が発生する。対策として、天端だけでなく、高水敷や側道も走行してデータを収集して活用も検討課題」と話している。さらに、UAV（無人



航空機）の活用によるデータの補完もテストする予定。河川堤防の点検はこれまで全て目視に頼っていた。新探査技術の活用について中部技術事務所の瀬古真一 副所長は、「目視と併用するだけでなく、効率化の効果は大きい」ともみている。また、客観的で高精度なデータが

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中勢 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建設 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |